

「TEENAGED」 戸田大地

2000年～2003年 作詞作曲

2012年 歌唱演奏

2021年 リマスタリング

1. 駅前

2. ポケットティッシュ

3. 待ってるから

4. 惰性走行

5. ジグソーハート

6. ゴーゴー 阪急京都線

7. 入道雲の居た空

8. 五月晴れ

9. 満月

10. 祝福

11. 京都の霜月

## 駅前

五時過ぎになれば　また騒がしくなり  
帰り道の分岐点へと　駅は変わってゆく  
電車の通過音は　いつでも僕を通り越し  
瞬間的な未来へと　脈拍を高めるのさ  
一人ずつに　一人ずつの　人生が在るって最近気付いて  
駅前は今日もまた人ゴミに埋もれて  
それでも心なし優しく時間は刻まれてく

オレンジに染まる　生まれ育った町  
いろんな人と出会って今　「僕」が此処にいる  
「時代は変わり行く」　どっかのオッサンが言ってた  
そんな中でも変わらぬモノ　信じて生きてみる  
どっかでまた　誰か死んだ。　そして誰か生まれ　地球は廻るよ・・・  
時間とか時代とか皆忙しそう  
だけでも「自分自身」抱いてゆっくり頑張ってる

誰だってどんな奴だって苦しみや悲しみを  
乗り越えて立ち止まってまた走り出すんだ  
駅前は今日もまた人ゴミに埋もれて  
それでも心なし優しく時間は刻まれてく

ポケットティッシュ

恋愛ってのは例えるならば照る照る坊主  
気休め程度じゃ結局は自分が傷つくだけ  
妥協と安住の風の乱れる世の中で  
愛という太陽の輝きがどこまでガンバレるのか  
君に振られてからというもの 恋は客観視しかできない  
恋愛ってのは例えるならば街角のポケットティッシュ  
こっちが手を出しても顔見て引っ込められたよ・・・  
ああ も一度考え直してくんないかな  
頭の中からまだまだ君はブッ飛んで行きそうに無いし

恋愛てのは例えるならばクイズ番組  
悩めば悩むほどドツボにはまってしまっただけ  
恋に何を期待すればいい？君は誰に恋をしてる？  
恋愛ってのは例えるならば川原のへボ野球  
タイミングが合っていないからいつも皆空回り  
ああ あなたを愛し続けて行くべきか  
それとも新たな女の子に傾いて行くべきか

君を忘れようとして街を歩く  
でも色んなものが君を追いかける

恋愛ってのは例えるならば街角のポケットティッシュ  
こっちが手を出しても顔見て引っ込められたよ・・・  
ああ も一度考え直してくんないかな  
頭の中からまだまだ君はブッ飛んで行きそうに無いし

待ってるから

時計に目を向けながらロズさんだ歌は  
歌ったバンドも今じゃ何処に行ったか知らない  
何なんだろうこの物哀しさ 久し振りに君に逢えるのに  
期待もあるんだけどなんか 涙が零れてしましそうだよ  
何も考えずに笑ってたあの頃の僕らは  
笑顔のまま心に鍵かけてしまってるから  
電車が止まったよ 駅のホームに  
あれに僕の思い出と  
笑顔と心が詰まってる だから  
どうか変わらないで

落ち込んでた時でも誰かが見ててくれた  
それが君とわかったよ ホントに最近だけど  
ロズさんだ歌がサビのメロディ奏でる  
心の苦しみと痛さは何故なんだろう  
何も考えずに苦しんだあの頃の僕らは  
涙の色そのまま 何重にも鍵をかけて  
電車が止まったよ 駅のホームに  
あれに僕の思い出と  
笑顔と心が詰まってる だから  
どうか変わらないで

待ってるから 来てほしいよ  
雨がいつの間にか降ってきた  
待ってるから 全て捨てて  
君にもう一度会うために  
電車が止まったよ 駅のホームに  
あれに僕の思い出と  
笑顔と心が詰まってる だから  
どうか変わらないで

## 惰性走行

小さい頃電車に乗るといつも一番前の車両の  
一番前の席に座って走る景色を見てた  
五回に一度位ハゲたオジサンがその席に  
ポッカリ口を開いて眠りこけてた  
そんな時僕はどうしたのか 忘れたけど  
今はとりあえず扉にもたれかかる僕が居る  
スピードの伸びない畑が飛んで行く  
鈍行と呼ばれた頃の名残だろうか  
時間の流れの中 一番前に  
座るのは子供

トンネルに入ってしまうと 運転手がカーテンを  
降ろしてしまうから前が見えなくなった  
だけど別に僕はコンクリートの壁は  
見たくなかったからどうでも良かった  
光なんて要らないって思ったんだけど  
無くなった時になったら何故か哀しくなる  
スピードの伸びない畑が飛んで行く  
鈍行と呼ばれた頃の名残だろうか  
時間の流れの中 一番前に  
座るのは子供

子供じゃなかった人は居ないはずさ  
今では色々と忘れたらろうけど  
残り物も少し有ると思うから  
僕は座ったよ

## ジグソーハート

気が付けばまたこの場所にやってきてしまった  
目的を持つ人々に紛れてモノクロの自分だった  
電車を待てどもあと十分は来ない予定だった  
ホームを間違えた自分に気付いて走り出すのであった  
固く結んだはずの靴の紐もいつの間にかほどけた  
乾いた音でただコンクリートを駆け抜けていった  
言葉に出来ないような想いは頭の中で泳がせた  
時間つぶしにはもってこいと自画自賛していた  
空を見上げた僕だけど哀しくはなかった  
特急の通り過ぎた後はやけに静かだった  
想い 今も揺れているけど仕方がなくて  
この空っぽにジグソーをはめ込んでゆく

人はどうして孤独を恐れるのか分からなかった  
自分の中の光がしっかりと輝いていた  
また傷つくくらいならもう何もいらないと泣いた  
それは本当の自分なのかと自問自答した  
赤信号が青くなって電車は走り出した  
誰も居なけりゃ僕はどんなのになるのか  
日々を過ごす自分の心にたくさん傷がついた  
だけど 今も 何処かでまだ求めているんだ  
ジグソーはいくつか足りなくて出来上がらない  
空を見上げた僕だけど哀しくはなかった  
特急の通り過ぎた後はやけに静かだった  
想い 今も揺れているけど仕方がなくて  
この空っぽにジグソーをはめ込んでゆく

ゴーゴー阪急京都線

トンネル地下の河原町から発車して烏丸へ  
大宮・西院 通ったら地上へ出て西京極  
桂と京都市最後の駅の洛西口を越えて  
北から南へ走っていくのに東向日西向日  
2本のレールが僕たちに知らない場所を見せてくれる  
阪急に乗ってどこまで行きましょうか？

長岡天神大山崎でさようなら京都府よ  
大阪に入り一番初めは水無瀬駅  
上牧の次は特急が止まる高槻市  
富田の次の綺麗好きな駅「総持（掃除）寺」なんちゃって  
2本のレールが僕たちに知らない場所を見せてくれる  
阪急に乗ってどこまで行きましょうか？

茨木市 南茨木 位置関係がわかりやすい  
よく終点になってる正雀駅を越えて  
相川 上新庄 次は 地下鉄が見えてきて  
淡路駅だと言うことに初めて気がつきます  
2本のレールが僕たちに知らない場所を見せてくれる  
阪急に乗ってどこまで行きましょうか？

崇禅寺から南方 終点 梅田も目の前です  
ジュウサンと呼んでいた十三は 阪急の心臓駅  
中津を通過して淀川をゆっくり渡ったら  
大阪キタの終点駅梅田に到着です

やっぱり普通を使ったら時間がかかってしまうなあ・・・  
帰りは特急を使ってさっさと帰りましょう

僕が生れる前から電車は走っていたんだね  
阪急に乗ってどこまで行きましょうか？

## 入道雲の居た空

オレンジの夕暮れ 細い路地  
空には大きな入道雲  
想いはあの時もうすでに  
雲間に吸い込まれてたんだろうか  
夏の匂いのアスファルト 恋した笑顔は遠くへサヨナラ  
一番星はまだ僕の眼には移らない・・・これからも？  
今年最後の入道雲も どっかの町へ消えてった  
使い古された恋の抜け殻抱いて  
片隅からはもう秋風の匂い

少し遠くのほう 人が流れ  
駅から向こうに明日が見えた  
遠回りしたあとやっとなつた  
正直な気持ちと思ったのに・・・  
誰か傷つけてしまって 自分の弱さに涙がこぼれた  
自転車押してもただ疲れる事は無い 歩くだけ  
今年最後の入道雲も どっかの町へ消えてった  
使い古された恋の抜け殻抱いて  
片隅からはもう秋風の匂い

ごめん ごめんと 思い出だけ心の中に染み付いて  
友達で居られるはずなのに  
急に言葉を失ってしまう・・・



五月晴れ

午前中の風は少し涼しく訳もなく僕は寂しいんだ  
なにもが終わったかのような意味深な世界さ  
別に不幸なのではないしかとって幸せなのでもない  
だから僕は行き場のない心に胸を痛められる  
君に想い伝えたくて言えなくて結局中途半端  
「これから何をすりゃいいんだろう？」わからない  
道を走る僕は何気なし 足りないものも無し  
そんなわけない  
穴ぼこだらけの僕よどうするよ  
考える五月晴れの中

風上を探しながら口ずさむとりとめのないラブソング  
独り言と何も変わらない 唄が泣いてるね  
午前中の風は少し涼しく訳もなく僕は寂しいんだ  
口から零れた即興の唄は溶けて無くなるだけ  
人を好きになる資格があるのかと愛しいあの子を想う  
他にやるべきことがあるだろうと哀しく笑う  
何も知らなく何ものに恐れ 僕は変わったよ  
変わりたくない  
君に恋した事誇りにしたいんだ  
前を見る五月晴れの道  
道を走る僕は何気なし 足りないものも無し  
そんなわけない  
穴ぼこだらけの僕よどうするよ  
考える五月晴れの中

## 満月

自分に対して どこか不安で 先が見えずに 途方にくれた  
夜はいつのまにか世界を包み込む  
誰かの声に また動かされ 僕はいつしか 僕で無くなりそうで  
冬の近づきがそっと顔をかすめた  
この暗闇の向こう側にぼやけた日常が待ってる  
こんなにも満たされた月が輝いているのに  
僕等といえば無力なドラマを演じ続けている  
照らされたマンホールに一瞬ハッとしたけど  
月明かりじゃなくて街灯だった。光は届かない・・・

心無い言葉 傷つけられて 僕も誰かの 心を泣かせ  
一步一步歩いて行くよ 光と灯（ともしび）が欲しいから  
こんなにも満たされた月が輝いているから  
一瞬だけでも何も考えず空を見ていたい  
そんな風に生きていく事さえ忘れた  
哀しい人並みの奥のほうへと明日も流れて行く・・・

どんな風な月が今夜を彩って居たって  
コペルニクスにもアームストロングにも僕はなれないのさ  
今はただゆっくりの奇跡を見ながら  
手の届く夢から一粒づつを集めようと思った

## 祝福

遠くに見えた空を夢見た なんにも無いけど楽しかった  
新たに変わる君の人生 一緒に過ごした瞬間永久に  
何かのために歩いて行くことが人として一番素晴らしい事なんだ  
祝福の唄を歌うよ 動き出した夢に歌うよ  
祝福の唄を歌うよ 君の旅立ちを歌うよ  
喜び 痛み 寂しさ 悲しみ 涙は全部を見つめていた  
誰かが君を見つめ泣いてる けども僕は笑顔でいよう  
言葉を使って飾り立てたって 上手に伝わるか分からないから  
祝福の唄を歌うよ 動き出した夢に歌うよ  
祝福の唄を歌うよ 君の旅立ちを歌うよ

遠くに見える空をご覧よ ぼんやりオレンジ染まってきた  
あの日の雲は今では見えない 思い出だけでも残しておくよ  
祝福の唄を歌うよ 動き出した夢に歌うよ  
祝福の唄を歌うよ 君の旅立ちを歌うよ

## 京都の霜月

あなたと一緒に歩いた 人ごみの新京極  
鴨川まではそう遠くはないから 四条通を東へ  
木屋町通りと高瀬川 タクシーの列の間に行く  
四条大橋の川沿いで 愛を深める恋人達  
東山を見上げれば 春を待つ冬支度のユリカモメ  
もうさよなら つないだ手も 風に吹かれた髪も  
一人で歩いてゆくだけさ 落ち葉の似合うこの街を

京都南座を横目に アーケードの町並み歩き  
ポケットに突っ込んだ両手は 物足りなさ感じて  
八坂神社の門の前で 信号が変わるの眺めて  
青の点滅に気づかずに また赤に先を閉ざされた  
ジェフ・ベックが来なかった 円山音楽堂に小雨舞う  
もうさよなら あなたの気持ち どうしても掴めずに  
二人の思い出捨てるため もう一度この道に行く

もうさよなら つないだ手も 風に吹かれた髪も  
一人で歩いてゆくだけさ 落ち葉の似合うこの街を

もうさよなら あなたの気持ち どうしても掴めずに  
二人の思い出捨てるため もう一度この道に行く